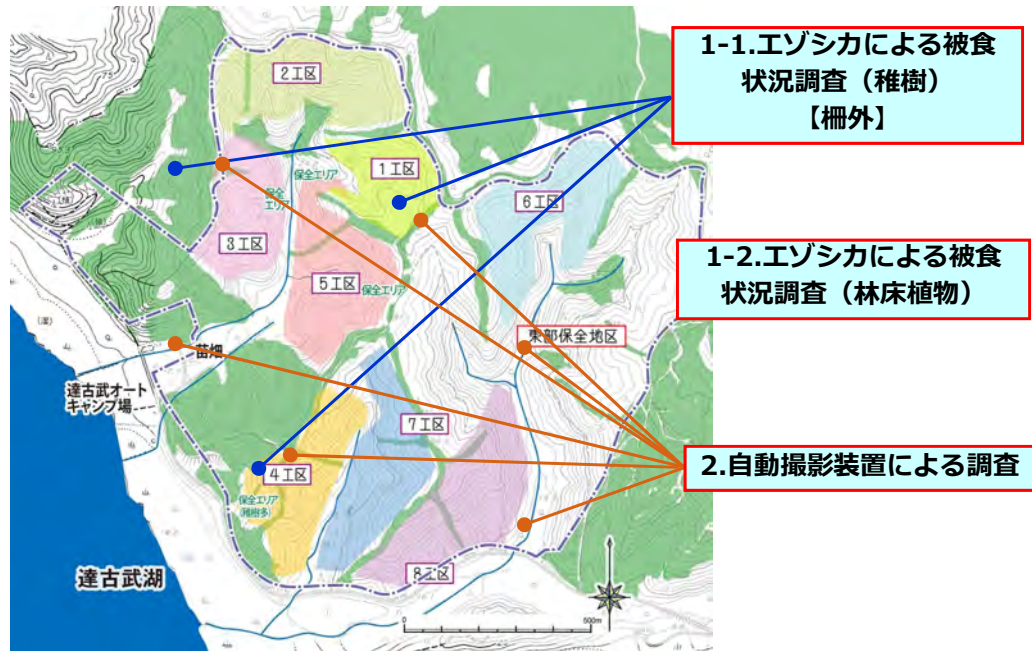


令和2年度自然再生事業における達古武地域植生調査報告



1-1.エゾシカによる稚樹の被食状況①

調査目的

□ シカ捕獲の効果検証、柵外での被食増加の検証

対象手法

□ 6エリアで柵外に生育する天然更新している稚樹をモニタリング調査。

調査稚樹

樹種	本数
アオダモ	67
ヤマグワ	32
ミズナラ	23
ミヤマザクラ	16
イタヤカエデ	13
計 23樹種	233



調査ライン



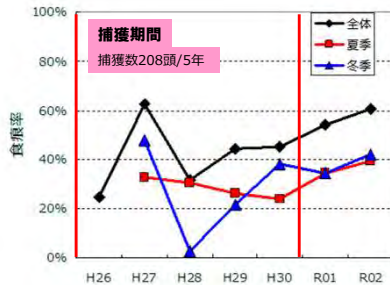
アオダモ食痕



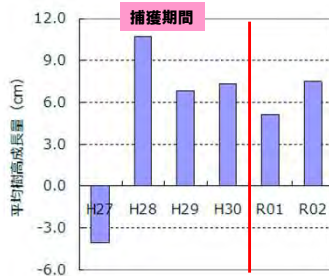
ヤマグワ食痕

1-1.エゾシカによる稚樹の被食状況②

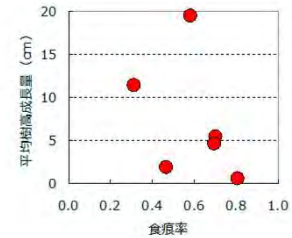
新規食痕の割合



平均樹高成長量



調査エリア別の食痕率と成長量の関係



調査結果

- 夏季・冬季ともに食痕率が増加傾向。
- シカの影響は依然としてあるが、樹高成長はプラスを維持
- 成長量はエリアにより差があり、食痕率が高い箇所では低い

方針

- 樹高成長は続いているが、被食の影響が増加しており、今後の状況を注視していく。

1-2.エゾシカによる林床植物の被食状況①

調査目的

- シカ捕獲の効果検証、柵外での被食増加の検証。

対象手法

- 20区間で柵外に生育する林床植物20種を調査。開花期(6・8月 [一部区間のみ])に実施。

調査対象植物

ヤマブキショウマ	アキカラマツ
エゾイラクサ	オオヤマアザミ
ヨブスマソウ	オオヤマオダマキ
チシマアザミ	オオウバユリ
オトコエシ	ツリガネニンジン
サラシナショウマ	オオバナウド
ウド	エンレイソウ
エゾトリカブト	オオアマドコロ
エゾノヨロイグサ	オオバナノエンレイソウ
カルマユリ	ミツバベンケイソウ



チシマアザミ (食痕)



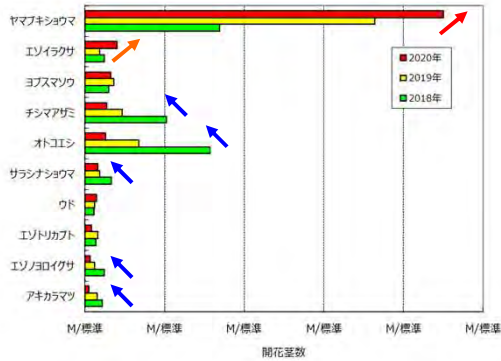
エゾノヨロイグサ (食痕)



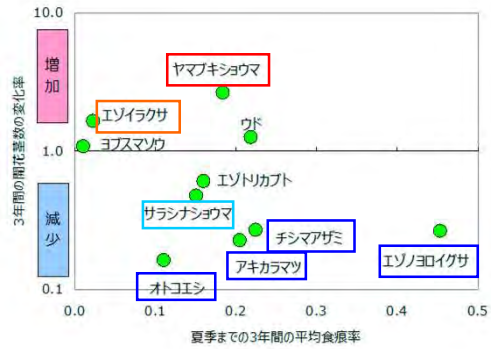
サラシナショウマ (食痕)

1-2.エゾシカによる林床植物の被食状況②

開花基数の変化



開花基数と食痕率の関係



調査結果

- 開花基数は、種によって増加や減少が見られる。
- ・ 増加：ヤマブキショウマ等
- ・ 減少：チシマアザミ等

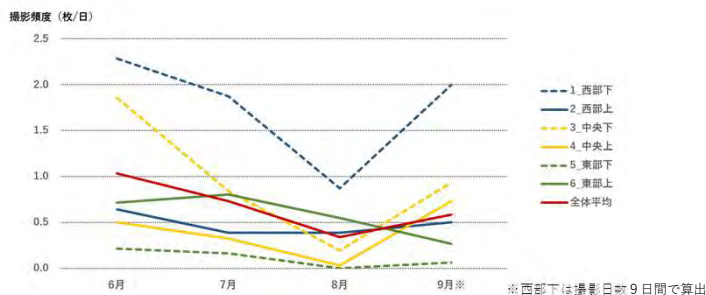
方針

- 食痕率が高く、開花基数が減少している種があり、今後の状況を注視していく。

2.自動撮影装置による調査

対象手法

- 自動撮影装置による調査(事業地6基)
生息する動物相の把握・エゾシカの行動・密度把握



調査結果

- エゾシカの利用は、8月に最も少なく、6・9月に多くなる傾向。
- 全体の平均撮影頻度(枚/日)は0.62となり、エゾシカ調査の手引き※で示されている捕獲対策の実施目安の撮影頻度0.5(枚/日)以上を超える数値となった。

※「森林管理者のためのエゾシカ調査の手引き」
(地独) 北海道立総合研究機構環境科学研究センター林業試験場、平成29(2017)年3月発行